

第22回環境情報科学センター賞 受賞者

学術論文賞

受賞者：有賀健高 氏

(埼玉大学大学院人文社会科学研究科)



対象業績：消費を通じた被災地復興支援行動と利他的意識に関する一連の研究

【受賞理由】

この研究は、被災地の復興支援のための消費行動と消費者の利他的意識とが関係しているかについて、①その度合いを測るための指標によるアンケート調査、②消費行動と消費者の社会的属性、③消費者の消費行動と被災地との社会的つながり、などの3つの側面から分析し、その関係を明らかにするというものである。そして、これらの分析成果から、ア、利他的意識の度合いが強い消費者ほど、復興支援の消費に積極的であること。イ、社会的属性による消費行動の差異については、年齢や学歴は消費に負の影響があること、男性や所得の属性は、正の影響傾向がみられること。ウ、被災地復興支援の消費行動と被災地との社会的つながりに関する意識については、国内での被災地製品の購買意欲は高かったが、それに比べて、台湾や韓国の製品については、その傾向はみられず、社会的つながりの意識の高低では、国境を越えてまでは及ばないこと、などを明らかにしたとするものである。利他主義が、被災地への寄付行為だけでなく、被災地産の食品や飲料品の購入といった復興支援の消費行動に及ぼす影響を明らかにした一連の研究は、オリジナリティが高く、心理学的な測定尺度と経済的な選択実験手法を組み合わせた分析手法によるその研究成果は完成度も高く、信頼度や明確性も非常に高いと考えられる。

筆者が述べるように被災地復興支援にかかわる消費行動を心理学や経済学の手法を融合した手法で明らかにしようとする試みはチャレンジングな試みとして大いに評価に値するものと思われる。よって、「学術論文賞」に値するものとして、ここに推挙する次第である。

<対象論文等>

- ①有賀健高 (2019) 「被災地復興支援の消費行動と利他的意識に関する研究」『環境情報科学論文集』33:205-210
- ②Aruga, K. (2020) Radiation knowledge and willingness to buy bottled water from regions near the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Water International*, 45:812-823
- ③Aruga, K. (2020) Is Environmental Awareness a Good Predictor of an Individual's Altruism Level? *Sustainability*, 12(19): Article 7929.
- ④Aruga, K., and Bolt, T. (2020) Is the willingness to support disaster regions through consumption related to altruism? A discrete choice experiment. *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 50: Article 101876.
- ⑤Aruga, K., and Bolt, T. (2021) Investigating the effects of altruism on consumer preference for food from disaster-affected regions: A case of Japan. *Journal of Agriculture and Food Research*, 6: Article 100215.